

会 議 録

令和2年2月14日作成

| | | | |
|----------|---|-----|----------------|
| 会議名 | 第8回木更津市民会館整備検討委員会 | | |
| 開催日 | 令和2年2月5日(水) | 場 所 | 駅前庁舎8階 防災室・会議室 |
| 時 間 | 午後2時00分～午後4時30分 | | |
| 出席者 | 委 員：倉田委員長、古橋副委員長、伊藤委員、松井委員、石村委員 宮崎委員、土居委員、地曳委員、渡部委員、岩埜委員 事務局：総務部 伊藤次長 総務課) 曾田課長、安田副主幹、河名主任主事 管財課) 勝畑参事兼課長、岡田参事、平本主幹、廣田主査 (株)シアターワークショップ 伊藤代表取締役、佐藤氏、古川氏、伊藤氏 【木更津市中規模ホール整備基本計画策定業務受託者】 | | |
| 議 題 | 1 第7回委員会議事内容の確認について 2 基本計画(案)について | | |
| 公開・非公開の別 | 議題1～2 | 公開 | |
| 傍聴者数 | 5人 | | |
| 配付資料 | ○会議次第 ○資料1 第7回委員会議事内容の確認 ○資料2 基本計画(案) | | |
| 会議概要 | 別紙のとおり | | |

○司会

本日は皆様お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。

ではまず初めに、配布資料のご確認をお願いいたします。

【配布資料確認】

よろしいでしょうか。

なお本日の会議は公開で行います。

会議の傍聴希望される方がおりますので、ここで、傍聴人の方に入ってください。

【傍聴人入場】

ただいまから第8回木更津市民会館整備検討委員会を開催いたします。

ここで会議の定足数についてご報告させていただきます。

附属機関設置条例第6条第2項の規定によりまして、会議は委員の半数以上の出席がなければ開くことができないとなっております。

本日、石村委員より遅れて到着する旨の連絡を受けておりますが、現状で全10名中9名のご出席をいただいておりますので、委員会は成立することを報告させていただきます。

なお、本日の委員会につきましては、会議録作成のため会議内容を録音させていただきますのであらかじめご了承ください。

また、発言の際は、お手元のマイクのボタンを押し発言後は、もう一度ボタン押してマイクをオフにさせていただきますようお願いいたします。

それでは初めに倉田委員長よりご挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

【倉田委員長あいさつ】

○司会

それでは早速議事に入りたいと思います。

附属機関設置条例第6条第1項に、委員長が会議の議長になるとございますので、ここからの議事進行につきましては、倉田委員長にお願いしたいと思います。

倉田委員長よろしくお願いいたします。

○倉田委員長

それでは議事を進めさせていただきたいと思いますが、議題に入る前に連絡事項ですが、発言される前に、挙手をお願いいたします。

本日予定しております議題は前回の議事内容の確認と基本計画(案)についての2件となっております。

中規模ホール整備基本計画についての本委員会での審議は、本日、最後にできればと考えておりますので、委員の皆様には最終的なご確認ということでよろしくお願いいたします。

それでは2件の議題につきまして事務局より説明をお願いします。

○事務局

本日はこれまで開催しました委員会での皆様からのご意見等を十分に踏まえた上で、最終的に答申いただく「中規模ホール整備基本計画に関する事」の内容になります基本計画(案)をご提示いたしますので、ご審議のほどよろしくお願いいたします。

では、シアターワークショップよりご説明いたします。

○シアターワークショップ佐藤氏

【議題1、2を説明(途中、石村委員到着)】

○倉田委員長

ただいま事務局から議題1、2についての説明がありましたが、質疑、或いはご意見ございましたらよろしくお願いいたします。

○松井委員

質問なのですが、前回からの修正部分はシアターさんが作成したのでしょうか。

○シアターワークショップ

前回の議事内容を踏まえ、我々の方で作成し、市に提案させていただいたものです。

○伊藤委員

前回、指摘した部分は上手く修正されていますが、管理運営項目が単なるチェック事項のように見受けられます。計画書ではなく、マニュアル書という位置づけでいいのでしょうか。

○事務局

今後、管理運営計画を作る予定ですので、今回はこのような整理の仕方とさせていただきたいと考えております。

○古橋委員

計画書については、非常にそつなくまとめられており、なおかつハードの部分にも今後流動的に対応できる余地が多く残っていると思います。

これをどうとらえるかと言うところですが、この計画をもとにインパクトのあるハードデザイン・運営計画ができれば、木更津市ならではのホールとして生きると思います。

ただ、この計画のまま作れば、絶対成功するというものでもありませんので、何かひとつピンポイントでも光るものが必要かなと思います。

○松井委員

前回提示いただいた計画案からは、かなり前進したと思いますが、基本理念の「自立・循環・共生」が、まだしっかりと反映されていないと思います。

もう少し積極的な打ち出し方が必要であり、現状では、単に情報を述べているだけに過ぎません。

多様な人が集まってきていて相互にギャップがある一方で、共生できる可能性があるからこそ、こうした施設の方針だ、という説明が必要だと思います。

「居場所」が唐突で一体何を意味しているのかわかりませんので、一人ひとりが居場所をもつことで、自分自身や他者の可能性などを発見できる、など一種の片鱗、ヒントのようなものが欲しいと思います。

また、11ページの「施設機能の考え方」の部分で新たな説明が加わっており、これが肝だと思うのですが、単に基本機能が整理されているだけなので、プロセスとしてどういうことになるのかという記述が欲しいと思います。

例えば、市民が興味を持つ仕掛けを考え、そこで来場者が交流したり、創造活動を行ったりでき、そうすることにより新しいものが生まれるというイメージが必要なかなと思います。

○事務局

基本構想の段階で「自立・循環・共生」が掲げていて、この部分をより丁寧に説明するのが、実はなかなか難しいのですが、これを整理したのが、「2.施設の考え方」となっております。

ただいま委員よりご意見を頂いて、もう少し具体的な記述などで改善していきたいと思います。

○伊藤委員

今回建設するのは文化施設なのですが、どちらかと言うとにぎわい拠点や市民の交流に視点を置きすぎていて、市民の文化活動とのつながりがイメージできないように感じます。

委員会の中で、市民アンケートや市民WSに関する議論を進めたが本計画書の中に反映されていない印象があります。

難しいと思いますが、10ページの「基本理念・施設の考え方」の図に、この施設がどのように使われるのか、具体的な利用者像が整理されているといいと思います。

このままでは、具体的な芸術活動が見えきませんので、文化活動している人たちがこの施設に期待できることは何なのかを考えていく必要があると思います。

○古橋委員

11ページの概念図はすごく面白いと思いますし、それが15ページの機能機関連携図で一般建築的な施設配置を想起させるような感じになっています。

しかし残念ながら、今までの議論から中心はメインホールではなくスタジオになっているように見え、このメインホールを「メイン」と呼ぶことに若干違和感があります。

○倉田委員長

色々ご意見が出てきましたが、「自立・循環・共生」が本計画でどう展開されているのかが、やはり気になるところで、このキーワードは木更津市のまちづくり全体における理念であり、この施設のために出てきたものではないと思います。

それを受けて、この施設ではどういうふうにそれぞれの理念を展開していくのかということだと思います。

「自立=アイデンティティ」「共生=多様性」「循環=時間の概念」と思われますので、このような考え方、ニュアンスを施設に寄せて書けるといいのかなと思います。

「居場所」というのは、まちづくりの中ではプレースメイキングと言われています。

プレースである空間の中に、活動・時間が入ってきたときに、単なる空間から場が変わるといことになりますが、場という言葉が伝わりにくいため「居場所」に置き換えている傾向があります。

矮小化された概念になってしまっているところが、少しこの「居場所」という言葉がもたらす一つの弊害というふうに思っていますが、「空間×活動=文化活動」によって生まれる場をどうつくるか、が今回求められていることですので、もう少し「文化活動を通して」というニュアンスが入ってくると「居場所」の考え方も明確になってくるのではないかと思います。

また、後半の管理運営・事業手法などについては、かなりマニュアル的になっているというご指摘がありますが、施設の性格づけとか方向性によって運営等も変わってきますし、財政的な要因も関連してきますので、現時点ではマニュアル的にならざるを得ない部分であると思います。

○松井委員

24ページでは管理運営に関する基本的考え方として、運営組織についてマニュアル的に書かれていますが、20ページでは人材を確保しなどと踏み込んだことも書かれています。

これらの方向付けは、どこまで今後の検討に反映されるものなのでしょうか。

○土居委員

現状で発注方式、建設方式、管理運営方法などは、まだフラットな段階で、実際建設をしていくとになった時には、財政状況などを踏まえて決めていく必要があると考えます。

それぞれのメリット・デメリットの選択肢を記載していれば、これを基に選んでいくことができるのかと思います。個人的にはデザインビルドという考え方になっていくのかなと思います。

○松井委員

ホールのハード部分に沿うように運営部分を考えるのではなく、運営部分に基づいてハードを考えるのが本来のやり方だと思います。

しかしながら、運用方法やハードのあり方を考える以前に、基本計画として何を目指すべきかという木更津市の考え方や姿勢などがまず一番大事なのではないかと思います。

そこをしっかりと考えていないと、ハードの使い道や事業展開の仕方などがすべてご破算になるのではないかと感じます。

○土居委員

管理運営方法については、市民のためになる運営方法はこうだという意見などを記載していくことはできるだろうと思います。

施設をうまく管理運営する上で、それぞれの事業方式の良し悪しについて、色々のご意見をいただき、踏み込んで書いた方がいいのではと思います。

○古橋委員

運営管理とPFIなどの事業手法は全く別物ではなく、管理ありきの事業手法になってしまうことにもなりかねませんので、事業手法を財政のみで決めるのは危険だと思います。

管理運営主体については○△×で優劣を付けられるようなものではなく、色々先を見据えた上で検討する必要があります。

○伊藤委員

管理運営主体の良し悪しに関しては、設計方法によって変わってくると思います。

この施設を管理するために、人材をどうするか、どのような専門性を持った、例えば、市民活動の専門家、経営の専門家などを求めるのかの記載が、現状ではあまりにも簡易すぎますので、もう少し詳しく記載した方がいいのではないかと思います。

○土居委員

貸館中心となるのが現実ですが、そうならないような記載が必要だと思います。

○伊藤委員

貸館主体だとしても、提携や共催なども含めた官民の協力体制を作っていくための管理方式を考えないと文化施設としては厳しいものになると思います。

○古橋委員

貸館とはいえ、それなりのコンセプトを持っていなければ意味がないと思います。

○土居委員

管理運営の評価方法は稼働率が中心で、それを避けるような方法としたいが難しいと思います。市民の交流エリアについても稼働率には反映されません。

○古橋委員

管理運営の評価の仕方としては、稼働率に目が行きがちですが、稼働率のみを重視するか否かは評価軸の話であり、公共施設としては、その存在意義をどう重みづけし、運営に対して評価軸をどこに置いていけるかが重要だと思います。

管理運営に関する考え方などで、運営主体を決めてく上で留意しなくてはならないポイントのようなものを、もう少し記述しておいた方がいいのではないかと思います。

○倉田委員長

管理運営に関する考え方などで、運営主体を決めてく上で留意しなくてはならないポイントのようなものを、もう少し記述しておいた方がいいのではないかと思います。

事業、整備手法についてメリット・デメリットが記載されているが、現実的な問題までは書かれていませんので、今後、事例も含めて検討する必要があると思います。

○松井委員

計画の中で、国の文化政策の動向というようなことが、客観的な事実として触れられているのですが、日本全国のホールは開館以降運営に悩んでいます。

劇場法にも記載されているように、文化施設は、地方都市が抱える課題解決のための再生拠点にならざるを得ない状況で、文化活動をうまく活用する、ということが国の政策のひとつとして挙げられています。

劇場は地域にインパクトを与える運営を担う必要がありますが、民間の指定管理者は利潤を追求する傾向にあるため、本来の思想を考えると、地域の公益的な団体等が運営するほうがよいと思っはいるのですが。

○倉田委員長

私も経験上、指定管理者を選ぶ事の難しさを感じており、いかに効率的に運営するか、一般的に求められている市民に対するサービスも含めて選定していくわけですが、一方で、施設についての独自の取り組みがどこまでできるかということになった時には、そういう選定方針等の議論が少し排除されてしまうという現実があります。

文化施設の運営において、一部まちづくりに繋がるところで、その地域の状況に合わせて、どのくらい関わってくれるか、簡単に言うと、その地域に対する思いなどをどこまで共有できるかということも考えて指定管理者を選ぶ必要もありますが、なかなか大変だと認識しています。

○古橋委員

事業の整備方法のところですが、29ページの「民間事業者のノウハウ活用『を』念頭において」は、「民間事業者のノウハウ活用『も』念頭において」と修正すべきではと思います。

すでにPFIなどの事業手法に絞ったような記載で、少し違和感があります。

○岩埜委員

関連しますが、29ページの「財政負担の軽減を図るためにも」は省いてよいのではと思います。

民間事業者を入れることを前提としてこの計画は今後進めますというように読めてしまうのではと思いますので。

○伊藤委員

「民間事業者のノウハウの活用」を直接PFIには結びつかない表現にした方がいいと思います。

○倉田委員長

整備手法の検討の内容が、少し誘導的ではないかと感じますので、もう少しバリエーションを増やすなどの工夫をした方がいいと思います。

財政部分だけでなく、ソフトやハード、それぞれの提案内容をどれだけ重視するかが大事なことではないかと考えております。

この辺りで本日の議論は終了したいと思いますが、もしまだ議論が必要であれば、予備日となっている2月26日に、再度、委員会を開いて議論することもできますが、いかがでしょうか。

○松井委員

2月26日にもう一度委員会を行うとしたら、今日の話を反映させたものを作り、それを最後に、みんなで読み合わせするというような感じですか。

○倉田委員長

そのようになります。

○古橋委員

そこでちょっとお願いですが、せめて3日前くらいまでに資料を送付していただければ、意見等を整理して望めると思います。

○松井委員

本日の議論を踏まえて最後にもう一度議論する方が妥当だと思います。

○倉田委員長

事務局もそういう方向でよろしいですか。

○事務局

事務局といたしましては、当初から2月26日ということで設定をさせていただいておりますので、皆さんに議論をいろいろいただき、より良いものにするには、開催していただくことに差し支えございません。

本日、管理上のことについて、また少しご意見等いただき、最終的な文言の確認も行ってまいります。

○倉田委員長

では、本日の議論を踏まえて修正したものを次回の会議で議論していきたいと思います。

本日はありがとうございました。

○事務局

皆様長時間のご審議ありがとうございました。

最後になりますが、先ほどのお話にもありました、今後の委員会スケジュールについてですが、次回の第9回の検討委員会につきましては、2月26日（水）14時からの開催を予定しております。

次回は、本日皆様方から伺ったご意見を踏まえ、修正したものをお示しさせていただきますが、委員会開催前に資料をあらかじめ配布いたします。

次回は基本計画案を決定させていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは以上をもちまして、第8回木更津市民会館整備検討委員会を終了いたします。

本日はありがとうございました。

傍聴人の皆様におかれましては速やかにご退席いただけますようお願いいたします。

最後に事務局からのご連絡ですがの皆様におかれましては、本日出席に係る事務手続きを行わせていただきますので、しばらくその場にお残りいただきますようよろしくお願いいたします。

ありがとうございました。

上記会議録を証するため下記署名する。

令和2年 2月26日

木更津市民会館整備検討委員会委員長 倉田 直道